

# Trial & Error トライアル・アンド・エラー No.62

試 行 錯 誤



ミエン族の少女

## 目 次

岐路に立つインドシナ難民問題 .....	2
山岳民族と手工芸品 .....	4
海を渡ったモン族 .....	7
タイの仲間たち .....	8
クロントイの子供たちとともに .....	12
キャンペーン“Green For Africa”の ラインナップです.....	13
世界まんが博'86 GREEN FOR AFRICA .....	14
レストラン探訪 ホン・ヴィエト .....	18

# 岐路に立つインドシナ難民問題

JVC事業担当 古西 勇

## 縮小する定住わく

インドシナ難民の最初の大量流出以来、CCSDPT（タイにおける難民救援調整委員会）は11周年を記念する年次総会を7月11日に開催した。

タイ当局と再定住の地を難民たちに与えてきた諸外国政府の関係者たちは、新しく流入してきたインドシナの人々の動機について懐疑的な見方を強めている。つまり、彼らの多くが「難民——レフジーズ」の定義である「迫害より逃れる人々」というより、むしろより良い生活を得る機会を求めにきた「経済的冒険家たち」となってきたからである。

1975年以来インドシナ難民のための最も主要な避難地の国であったタイは、未だに国内に残留している難民たちに頭を悩ませている。12万6000人以上の難民がタイ国内の8つのキャンプに暮らしており、それ以外に24万人がカンブチアとの国境にいる。タイ政府はそれらの人々がタイに帰化することを拒んでおり、前者の難民たちに再定住の地を与えるよう諸外国に呼びかけてきた。

「再定住がもはや唯一の解決の道ではない」というのは、米国、カナダ、オーストラリア、フランスの4つの主要難民受け入れ国からの明言である。1975年以来タイに流入した65万8000人のインドシナ難民のうち、米国は36万8000人、約55%の人々に再定住の地を与えた。フランスは7万2400人、カナダは3万3000人、オーストラリアは3万人をそれぞれ受け入れた。しかし、フランスは昨年インドシナ難民の受け入れを極端に減らし、将来その受け入れのプログラムをまた復活することは期待できない。それ以外の主要受け入れ国においても、受け入れ規模の縮小は顕著である。

## 流入の停止

ラオス人は未だに流入を続けていて、UNHCR管轄のキャンプ人口の大多数を占めている。しかし彼らの再定住国への旅立ちが、経済的冒険家たちとみなされる人が多くなってきたため、減少している。カナダとオーストラリアは、ラオス人の同化する能力に疑問を持っていて、ラオス人を受け入れることに消極的であった。

ラオス人とベトナム人のキャンプを管轄している内務省は、1985年7月以来ラオスから来た者に対して適格審査プログラムを実行している。それにより難民として認められた人々はキャンプに入所することを許され、審査に落ちた人々は本国へ送還された。このプログラムによってラオスからの流入を減らしたことは意味深長である。UNHCRによれば、低地と山岳の両民族のラオス人は、適格審査プログラムが始まって以来5月に1900人を記録した時以外は、毎月321人を決して越えてはいない。昨年は1年間で合計1万4289人がやってきたが、今年は最初の5カ月間で2616人しかキャンプに入れなかった。

## 長期滞留者

タイ政府は、何年間にも渡りキャンプに滞留し続け第三国に再定住する可能性や見込みのない難民たちに頭を悩ませた。米国はこの問題に重大な関心を示しており、国務省の委託を受けた委員が昨年の遅くにこの地区を訪問し、最初の報告で次のように述べた。

「より多くの国がその長期滞留者の引き受けを分担すべきである。語学と職業訓練プログラムは難民がもっと多様な国々の再定住プログラムに適するようなものに作り変えなければならない。また、米国は米国との結びつきのない難民たちにも特別に関心のあるケースには再び受け入れを開始するが、最初の避難地の国々における滞在期間の長さを最重視すべきである」。

## 難民から移民へ

インドシナの人々の母国を去る原因が変わったこととインドシナ難民プログラムにおける予算の削減によって、米国政府はすぐに難民受け入れ政策の新しい指針を発行すると思われる。それは家族がいつに暮らすことを難民受け入れの優先目的としてはあまり強調せず、米国に家族のある人々は移民として処理するということだ。

米国に再定住したインドシナ難民の非常に大多数が再定住して以来、米国の市民権を得るための最短期間

期間の5年間を既に過ぎており、インドシナから帰化した米国市民の数は増加しようとしている。これらの米国市民たちの親戚であるインドシナの人々は、それに比例して増えており、移民の査証発給の適格者となってゆく。

### カオイダンの運命

国家安全評議会 (NSC) の事務局長プラソン・ソーンズリ大將は、何度も繰り返して「カオイダンは閉じられるだろう」と述べてきたが、これまではそれに応じて何ら具体的な行動はとられてこなかった。しかしながら、6月13日に5つの主要な再定住国の大使たちを招いた会合におけるプラソン大將の強い要請に応じて、米国とオーストラリアは、家族構成員が「ファミリー・カード (FC) 所持者」としてキャンプ内で分類されている4300人を対象に、すぐにインタビューを開始することになった。カナダも9月に開始する予定である。

カオイダンの人口の大多数の1万4000人の「難民として認められてきた」人々は、米国に再定住することを拒否されている。そして、それ以外の7100人の「レイション・カード (RC) 所持者」は決して第3国へ行くことは許されてこなかった。プラソン大將は「再定住国が彼らのインタビューを終えた後に、残ったカンブチア人を国境に移動するつもりだ」と述べた。移動先は、たぶんカオイダンの東北にある13万8000人のカンブチア難民 (ディスプレイスト・パーソンズ) を擁する主要な国境キャンプのサイト2となるだろう。

しかしながら何人かの外国人の救援活動者は、今回の動きはプラソン大將の再定住国にもっと多くの難民の受け入れをさせようとする強い要請を反映しており、カオイダンは結局開かれたままとなるだろうと推測している。大使館員たちは、いかなるキャンプを閉鎖するのもタイ政府に権限があると認めているが、ベトナムとカンブチアの抵抗勢力との間の戦闘による危険を受けやすい国境に彼らが移されることに不安を抱いている。

### 推し進められる本国帰還

UNBRO (国連国境救援機関) により援助されている国境のキャンプに居住する24万人のカンブチア人に対しては、第三国定住のための処理は行われない。彼らは、状態が許せばカンブチア国内へ帰るものと予期されている「ディスプレイスト・パーソンズ」

として「難民——レフジーズ」とは区別されている。米国とカナダは、最近人道的ケースとしてそのカンブチア人の幾人かを受け入れ始めたが、その対象となった人数は非常に少ない。

彼らの本国帰還は、カンブチアをめぐる政治的・軍事的衝突の継続により邪魔されており、ベトナム支配の軍隊と戦闘している抵抗勢力が唯一の市民基地を失うことを意味する。タイ政府はヘン・サムリン政権を認知することを意味するのを恐れて、彼らとのいかなる接触も拒んでいる。そこで、国境で医療サービスと保護をカンブチア人に提供している I CRC (国際赤十字委員会) は、小規模で開始されるよう提案されている本国帰還のプログラムについて、タイとヘン・サムリン政権との間で討議するための媒介者としての役目を果たすようになった。

現在本国帰還はラオス難民に対してのみ可能となっている。しかしながら、UNHCR がスポンサーになっている自主的本国帰還プログラムによりラオスへ戻った人々は少ない。235人のラオス人が昨年本国帰還したが、1986年の最初の5カ月間では59人しか本国帰還しなかった。そのプログラムを妨げている要因の一つは、ラオスの貧しい経済状態である。ラオスはその経済を、ほとんどソ連や他の社会主義国の援助に頼っている。オーストラリアも小さな額ではあるが援助を提供してきたが、米国は外交関係を持つ唯一のインドシナの国であるラオスを経済的に助けようとする意志を示していない。

### 再び開かれるジュネーブ会議

UNHCR のジャン・ピエール・オッケは、9月にタイを含めた東南アジア諸国を訪問する。彼はタイの権威者たちとカオイダンの未来を討議すると予想され、またインドシナ難民の状況を変えることを討議するためにもう一度ジュネーブ国際会議の開催の必要性を打診するだろうといわれる。

最初のジュネーブ会議は1979年に開かれた。この会議の後たった2年目にして現れた「同情と哀れみの疲労」の国際共同体の国々が、また重荷を分担しあうことを強調するために、もう一度ジュネーブ会議が必要とされている。



## 山岳民族と手工芸品

コーディネーター  
日本語教師 浜崎 妙子

現在パナニコム・キャンプにはクメール、ラオスベトナム人のほかにモン、ミエン族などの山岳民族も滞在している。手工芸品を作って売っているのは主にラオス、モン(メオ)、ミエン(ヤオ)の人々である。

このような手工芸品はどのように作られ売られているのか、私たちは以下の質問項目を設け調査を行った。

- ①手工芸品の製作、販売に関してとりしきる組織がキャンプ内にあるのか。
- ②材料はどのようにして入手するのか。
- ③手工芸品による収入は1カ月どのくらいか。
- ④パナニコムと他のキャンプでは収入の違いはあるか。違ふとすればそれはいくらぐらいでその理由は何か。
- ⑤手工芸品による収入は何に使うのか。
- ⑥収入は足りているか、足りないとすれば1カ月いくらくらい必要か。
- ⑦手工芸品を売っている子供たちは誰かに頼まれているのか、または家族の作ったものを売っているのか。
- ⑧売り上げのうち子供はどれくらいもらうのか。
- ⑨作品のデザインや色使いは伝統的なものか、それとも買い手の好みに合わせているのか。
- ⑩子供たちはどうやって技術を覚えるのか。
- ⑪たとえば30パーツの財布の場合、大人、子供でそれぞれどのくらい製作日数がかかるのか。
- ⑫手工芸品はどのような時間に作るのか。
- ⑬手工芸品を作ることで健康、家事に問題は無いのか。
- ⑭第三国に行っても手工芸品を作り続けるのか。
- ⑮自分たちにとって手工芸品とは何か。

### 作品は自信を持って売る

調査の結果は次のとおりである。パナニコム・キャンプには製作、販売の組織はない。しかしモン、ミエン族が前に滞在していたバンビナイ・キャンプには、かなり大きな組織があったようである。そこでは作れば作っただけお金になったので、相当無理をしても一家総出で作っていた。収入も1カ月4000パーツぐらいにはなったという。ラオス人のいたナポー・キャンプも同様であった。

各キャンプからパナニコムに移動してきた時は持ってきたものを売って現金を作り、それで材料を買った。材料のすべてはこのキャンプの市場で揃えることができる。

子供たちは家族や同族の人たちが作った品物を預っては各ボランティア団体へ売り歩いている。30パーツの財布を1つ売ると1~2パーツほどもらえる。手間賃は30パーツの財布で12~15パーツといったところ。これを1つ作るのに大人で5日、子供で10日かかるので、1日の手間賃は大人で1日3パーツ、子供だと1.5パーツにしかならない。

パナニコムでは手工芸品による収入は1カ月500~2500パーツである。だがこれだけの収入を得ることは決して容易なことではない。私たちが改めて「値」を考えてしまった。私たちが会って話した人たちは例外なく「ここでは衣・食・住は一応保証されている。でも現金がほしい」という。そしてこうして得たお金は「日々の生活費と子供のために使う」と答えた。

デザインや色はまず伝統的なものを使い、それか



(上) 銀のプレスレット、ネックレス、指輪

(右上) 女性の衣装の方がししゅうも多く、色彩やか(ミエン)

(右下) ふだん着、正装と思いきいのスタイルで(モン)



らは各自のセンスでやっている。「値段」はそれぞれに自信を持ってつけているので、それ以下を要求される時には「売らない」ときっぱりいわれた。作っているところを1週間ほど追ってみて「当たり前だ」と思った。

### モン族

全員がアメリカ合衆国へ行く。バンビナイ・キャンプから来た人がほとんどである。10人ほどの人にインタビューしたが、お年寄りが多かった。訪ねたのが昼間だったので若い人は皆英語学校へいった。

モン族では作ったものを売る人は以外に少なかった。「アメリカに持っていく方が高く売れるし、何よりも自分たちの保証人になってくれた人にあげたい」という人が多い。また先に行った息子や娘から毎月お金を送ってくるので、「暇な時に楽しみで作っているよ」と木陰や家の前でんびりしたものである。「これ売って下さい」と頼んでも「ダメ、娘が待っているから」と断わられてしまった。でも何かで現金が必要な時には売ることもある。「アメ

リカに行こうが山にしようが、私たち女性は一生作り続ける。これが楽しみだからね」と笑って答えてくれた。

このおばあちゃんたちの横にはいつも子供たちがいて、せっせと刺しゅうをしていた。年寄りの側で子供たちは見よう見まねで技術を覚えていく。こうして伝統は伝えられていくのだろうが、この子供たちの次の世代はどうなっていくのだろうか。

### ミエン族

モン族と同様、バンビナイからパナニコムに来てほとんどがアメリカ合衆国へ定住する。パナニコムでは90人のグループが竹に囲われた一画に住んでいる。

「山にいる時は自分たちの日常品だったものが今はすべて現金を得るための手段になっている」と、まずグループのリーダーらしい人が言った。モン族の明るさに比べると何か切羽詰まった雰囲気がある。保証人がなかなか見つからず、長い間このキャンプにいるらしい。

ミエン族の場合は男性はシンプルで、女性は頭の

てっぺんから足の先まで刺しゅうで埋まっている。写真の女性のズボンが1年かけて刺して行く。何年もかけて若い娘さんは結婚衣裳を整える……これが美しい!!

5人の女性にズボンを見せてもらったが、各々デザインが違い、お互いのセンスをほめあっていた。これが「女の腕の見せどころ」らしい。伝統の模様と自分のオリジナルをどう組み合わせるかを考える時が楽しいのだそうだ。

男性は銀細工師が多く、四角形のクサリが特徴である。「蛇の骨」と呼ばれており、ネックレス、ブレスレットなどによく見かける。「こうしたものすべてがミエンの文化なので本当は売りたいくない。でも今は仕方がない。どこへ行こうか、どこに居ようか私たちは作り続ける。これはわれわれの文化だから」。最後の言葉が印象に残った。

#### ラオス人

定住予定国はさまざまだが、カナダへ行く人が多いようだ。ラオスの場合、手工芸品は実に多様だ。織物、刺しゅう、銀細工、木彫となんでもある。ナポー・キャンプには織機があり、サロンなどを量産していたらしい。1枚のサロン(模様入り)を織る

のに、10~12日かかる。絹が400パーツ、木綿だと150パーツほど、パナニコムではこれに100パーツを上乗せして売っている。またナポーから持ってきたものでバッグなども作る。1枚のサロンからだいたい20個ほどの財布ができる。

男性は銀細工師が多く、この技術は第三国においても高く評価されている。ブレスレット1個の手間賃は80パーツ。銀の値の変化にもよるが、ブレスレット1個200パーツが相場である。ここでも「今の自分たちにとって現金を得る手段はこれしかない」という。

これらの他にクメールの金細工もあるが、買っていないので省くことにする。

パナニコムでは健康を損うところまでいっていないが、現金を得るためにはそれなりの無理はしているだろう。しかし各団体を歩いて売っただけでは多額の収入は望めない。毎日持ってきたものを買っているのはJVCのみのようなのだ。

この調査をする中で私自身たくさんを知り、学んだ。何よりも楽しい、人との出会いだった。私個人の意見だが、実情を踏まえた上で価値に値する金額で品物は買うべきだという感想をもった。

## 山岳民族豆知識

中国南部からラオス、ベトナム、タイ、ビルマの山岳地帯にはモン(メオ=苗)、ミエン(ヤオ=傜)をはじめとする山岳民族が生活している。

彼らは雑穀やサトイモ栽培の焼畑農耕と、クズやワラビの根から澱粉をとる「水さらし」の技法、絹や漆の製造、コウジを使って醸造する酒、米を乳酸発酵させてつくる“なれずし”などを共通文化とする「照葉樹林文化」を形成している。これは日本の縄文文化とも深いつながりがあるといわれる。

モンやミエンのほかにもアカ、リス、タイルー、カレン、ラワなどの各種族はそれぞれ独自の伝統文化と民族衣装を持っていて、これらの衣装を飾る文様は精霊信仰や世界観と結びついている。

#### モン

原郷は中国の貴州省で、19世紀のはじめにその1部がインドシナ南部に移動したといわれている。中国名の苗は未開人<sup>メ</sup>という意味だが、彼ら自身は自らをモン(=自由人)と呼んでいる。

現在は中国に250万、ラオス、ベトナム、タイには100万のモン族がいるといわれている。

#### ミエン

タイでは主要な山岳民族で、他の部族を雇用することもある。民族的にはモンに近いといわれるが、彼らは漢字を理解し、独自の文書を伝えるなど文化的にはモンにはない特色がある。(モンには文字がない)また生活も個人主義的であり、長老・家長を中心とし、家族の連帯感が強いモンとは異なる。

これらの山岳民族は基本的には自給自足だが、今では塩、米などは平地民から買っている。彼らは換金作物として唐辛子や芥子を作り、タイでは銀行に預金する者もいる。人口増加、耕地不足、移動の禁止(タイ)など山岳民族も従来からの暮らしの転換を迫られている。

参考 『東南アジア山地民族誌』

白鳥芳郎編 講談社

# 海を渡ったモン族

インドシナ難民問題がピークを迎えた1979年から80年にかけて、タイのドンムアン空港は第三国に渡る難民の人々で埋めつくされていた。その中でもひととき目を引いたのが、独特の民族衣装をまとったモンやミエンの山岳民族である。平地の人々ともあまり交わらず自分たちの伝統的社會を守り続けてきた人たちが、アメリカやヨーロッパの現代文明の中にとびこんでいった。いったいこれからどんな生活が待ちうけているのか。彼ら自身はもちろんのこと、見送る人も不安をいっていた。

## アメリカ

86年5月末の統計によれば、6万9969人の山岳民族が第三国に定住した。彼らの大部分はモン族で、受け入れはアメリカが最も多い。少し前の数字だが1984年6月までに5万3792人のモン族がアメリカに定住した。アメリカはインドシナ難民を50万人も受け入れており、おのずとモン族の数も多いわけだが、ラオス内戦中彼らがアメリカに協力しパテト・ラオと戦ったこともこの数字と無関係ではない。

そのアメリカで全体の半分以上のモン族を受け入れているのはカリフォルニア州である。(ロードアイランド、ミネソタ、モンタナ、オレゴン、ワシントンの各州にも多くのモン族が定住している)

モン族が定住しているカリフォルニアの学生町は1970年当時、ベトナム反戦の学生運動の嵐が吹きあれ、銀行が焼かれたこともあった。今ここでモン族と学生たちは静かに共存している。モン族の存在を快く思っていない者もいるが、多くの学生は彼らを受け入れている。ただメキシコ人グループからはやっかみがあるようだ。

ここでは仕事に従事することのできる75%の人々が働いていて、主な職種は電気製品の組み立て工である。彼らはカリフォルニアの気候にも仕事にも満足しているようだが、長老たちは“山”で暮らしたころの権威を失いつつある。

機械文明のただ中にほうりこまれたモン族は、新しいことばや文字のほかに電気製品やガスの使

い方も覚えなければならない。子供たちは国際的な環境の中で(小学校には40カ国の子供たちがいる)、大人たちよりもより早く順応し、親たちの通訳を務めている。彼らはいずれバイクやスケートボードを乗りこなし、この町をふるさととするアメリカ人になっていくだろう。

## フランス

フランスにもモン族が数多く定住している。1975年から83年までに7600人を受け入れた。(他のラオス山岳民族との合計は1万2100人)また南米のフランス領ギアナでは故郷の風土に似た地域で定住が進められている。

ここに農業に従事したモン族の例がいくつかある。ある者は成功し、ある者は失敗した。フランス本土に定住したあるグループは“東南アジア難民受け入れ協会”から土地を借り、元手のかからない野菜を家族総出で作った。彼らは最初の収穫で自立していけるだけの利益を得ることができた。この成功は有能なリーダーによってもたらされたもので、いつもこうとは限らない。共同農場に加わろうとしたあるグループは、個人の生産による利益を共同体で分けるということができず、この試みは失敗した。

そしてさらに大ぜいの人々は組織化されず各地に散らばった。彼らの多くは仕立屋や屠殺場などの小さな事業所で働いたり、いなかで麦わら細工などの手作業で収入を得ている。また、時には農場に雇われることもある。

一方、フランス領ギアナでの定住はかなり成功している。ここでは1200人のモン族が2つの村を構成し、米や柑橘類、野菜を作っている。野菜を作るギアナの農民がほとんどいないため、今ではギアナの野菜の60%をモン族が生産するようになった。さらに彼らは養豚まで手がけている。この定住が成功したのは彼らが従来のやり方で耕作や養豚ができたことが大きな理由となっている。

参考 『REFUGEES』

1984, 10月号, 11月号

# タイの仲間たち

1980年にタイのバンコクでJVCが生まれてからもう6年がたちました。日本人ボランティアでござって返していたバンコクオフィスもスタッフは3人になり、各現場でも日本人の姿はめっきり少なくなりました。またJVCの活動範囲がアフリカにまで広がったことなどあって、タイの情報は不足しがちです。日本とタイが以前よりも遠いと感じる方がいるかもしれません。

今回は今まであまり知りあうことのなかったタイで働くメンバーをご紹介します。「今のタイ」はこんな人たちによって支えられています。

## バンコク・オフィス



- ① ポンピモン・チャイブーン
- ② 1947年11月20日
- ③ タイ
- ④ 1982年7月26日
- ⑤ 鉄線工場で働いた後、1年間自分で仕事を

営。それを都合でやめてから1年ほど家にいて、その後JVCに入った。

- ⑥ 私の兄がJVCで働いていたのでJVCが秘書を募集していることを知り、応募した。最初はただ働きたいだけだったが、JVCに入ってそのボランティアの精神と、国籍、宗教を問わない仕事に感銘を受けている。皆が素晴らしい目的をもって働き、自分自身の利益を考えずに助けあおうとしている。
- ⑦ アドミニストレーターに任命されたばかりだが、このポストはタイの代表の役目を負うことと思われる。私はタイのすべてのプロジェクトを把握し、ミーティングを開くという責任がある。また各プロジェクトと協調しながらバンコク事務所の運営にあたるのも私の仕事である。
- ⑧ 以前と比べるとJVCはかなり変わった。私たちはすべての規則やシステムの改善に努力してきたが、今最も問われているのはスタッフの質である。現在のスタッフのほとんどが新しいメンバーなの

## 質問項目

- ① 名前
- ② 生年月日
- ③ 出身地、国籍
- ④ JVCに入った、あるいは活動に参加した日
- ⑤ JVCに入る前は何をしていたのか
- ⑥ なぜJVCにかかわったのか
- ⑦ 仕事の内容
- ⑧ JVCについて感じていること、または提言
- ⑨ これからどのようなことをしたいか
- ⑩ ほかの国で働いているメンバーへ伝えたいこと

で、JVCの歴史や目的についてのセミナーが必要だと思う。

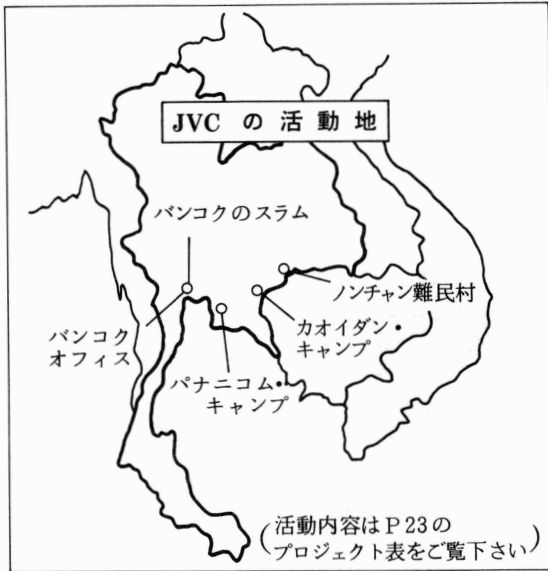
- ⑨ 現在の仕事に最善をつくしたい。
- ⑩ “JVC”という同じ屋根の下にいることが、違う国にいる私たちを近づけている。離れていても私たちの心は同じ。どうぞタイの私たちを訪ねてください！



- ① カモン・ミンムアン
- ② 1958年6月30日
- ③ タイ
- ④ 1983年1月4日
- ⑤ ラーマカムヘン大学(経済学)の学生だった。学生時代に会計士とし

て約2年間働いた。

- ⑥ JVCがドライバーとマネージャーを募集していることをポンピモンさんの叔母さんから聞いた。その叔母さんが私に応募するように勧めたのだが、そのころ私はJVCについて何も知らなかった。
- ⑦ 最初の年はバンコク事務所のドライバー兼マネージャーだった。2年目はプリラムで水補給チームに加わり、現在は再びバンコクで総務をしている。
- ⑧ JVCは素晴らしいNGOだ。なぜならJVCのスタッフ全員がボランティア精神を持っている。そしてみんな(特に日本人スタッフ)が仕事に対し



目的を持っている。私はJVCがこれからも貧しい人々の支えになってくれればと思う。私はJVCが大変好きだ。特にその目的とスタッフが。

## パナニコム



- ① 浜崎妙子
- ② 1946年11月12日
- ③ 福岡県出身
- ④ 1984年7月12日
- ⑤ 小学校教師, コンピュータ業務
- ⑥ 日本語を本当に必要とする人に教えたいと思ったため。

- ⑦ 「日本語クラス」, 定住に必要な情報・知識を伝えるための「日本文化紹介」, 子どもたちのために絵画や音楽を教える「子供クラス」などのプロジェクト・コーディネーターと教師をしている。
- ⑧ 現在タイ国内の難民問題は終盤戦に入ってきて, これまでかかわっていた我々の本当の価値が問われている。何を考え, 何をし, 何を学んだのか。その事をだれのためにどう発展させてゆくのか。
- ⑨ 2年近くたくさんの質問と答を生徒からもらった。私のライフワークとして, 日本に定住した彼らとともに喜び, 悲しみ, 怒りを分けあい, 一生懸命生きてゆきたい。
- ⑩ 帰ってこない今日という日のために, そして心の中になぜかかわっているのかという「核」を持つ人として, 活動地は違っていても燃え続けたいも



- ① 斎藤美香代
- ② 1956年1月7日
- ③ 大阪府出身
- ④ 1985年5月13日, タイには1985年9月24日から
- ⑤ 地方公務員

- ⑥ 本質的な仕事を重んじたかったから
- ⑦ 会計
- ⑧ もしタイを技術面ではなく総合的な意味でトレーニングの場と考えるのならば, 助言ができる人間的にバランスのとれたトレーナーの存在も考えなければならぬ。
- ⑨ 言葉のほかにもコミュニケーションの手段を向上させたい。
- ⑩ まだお会いしたことのない方もいらっしゃいますが, こんにちは, お元気ですか。日本との行き帰りにはタイにもお寄り下さい。その時に小さな報告会のようなことをしていただければ, とても嬉しいです。

のです。今タイは夕暮れ間近です。知的な終結にしたいと思っています。アフリカの皆様, 体力しかありません。お体にお気をつけ下さい。私の胸の内にある夢にどっぷりつかってみるつもりです。



- ① 大場きみよ
- ② 1965年3月16日
- ③ 東京都出身
- ④ 1986年4月8日
- ⑤ 製造会社で1年ほど働いた
- ⑥ 友人に紹介された日本語家庭教師活動を始めたのがきっかけ。

- ⑦ 「子供クラス」を担当している。ラオ, モンの小学生を対象にリクリエーション・プログラムを受けもっている。
- ⑧ 情報の提供, 現場と東京本部との相互理解を望む。
- ⑨ 今のプログラムを充実させてゆきたい。子供を理解し, 子供の限らない可能性をひき出してゆきたい。多くの人々とふれあい, 少しずつ何かを共有してゆきたい。
- ⑩ プログラムの対象者に, そして活動している身近な人々に敬意を表したい。誰もがどのようなプログラムにすべきかを学ばせてくれる。

## 地域開発(C. D)



- ① ヴェラナート・チュンクン(トックさん)
- ② 1955年9月4日
- ③ タイ
- ④ 1984年6月9日
- ⑤ 保険関係の仕事と同族会社の仕事の管理をし

ていた。そのころは苦しむ人々の力になりたいと考えるようになっていた。

- ⑥ プラティープ財団を通じてJVCが人種の別なくスラムや難民キャンプなどで人々のために働いていることを知った。この理念は私の思っていたことにも通じていた。大学での活動経験は今の仕事に役に立っている。私はこの活動が好きだ。
- ⑦ プラティープ財団のプログラムとも関連した奨学金、図書館、移動図書、移動教室、再定住の活動をしている。各々のプログラムは単に対象者を援助するのではなく、地域開発の中でいかにして共に協力しあえるかを考える。同時に他のNGOや政府機関とも調整を計っている。これは、ある種の問題は政府の方針によって解決されるべきものだからである。
- ⑧ JVC設立より6年間、時がJVCを成長させた。多くの経験をふまえ、活動システムや管理方法も改善された。しかし今後JVCが能率的に働くためにはスタッフ一人一人の力にかかっている。
- ⑨ 対象となるグループの必要性を最良の形で満たすためには、住民の知識を参考にしながら彼らと協力しあってやっていく。
- ⑩ あなた方は私たちの現場から遠く離れているが、人道的価値は同じです。どうかそれを続けて下さい。そして時間があればCDチームへどうぞ!!



- ① 佐藤正喜
- ② 1949年2月10日
- ③ 秋田県出身
- ④ 1982年9月
- ⑤ バングラデシュで1年間働いたことがある。また東京の障害者施設

で働いたこともある。

- ⑥ NGOの活動に興味があったし、政府機関に対するNGOの活動にも関心があった。
- ⑦ 会計と東京との通信

- ⑧ 現在、タイのJVCでは特にCDチームの活動は円滑に行われていると思うが、開発関係の活動を改善してゆく努力をすべきである。
- ⑨ バンコクのスラムの状況を詳細に知り、東京に報告したいと思っている。



- ① アルニー・スニットーモンナイ
- ② 1961年11月17日
- ③ タイ
- ④ 1983年1月1日
- ⑤ プラティープ財団のボランティア

- ⑥ スラムや難民キャンプにいる人々に手助けをしようとしているJVCの活動の目的をすばらしいと思ったから。
- ⑦ 学齢前の子供を教育し、母と子のコミュニケーションを育てるための移動学習センタープログラムを受けもっている。
- ⑧ 限られた生き方を余儀無くされている人々に援助をするのは良いことである。JVCは対象のグループが彼ら自身の手で立ち直ることができるにはどうしたらよいか考慮すべきでもある。
- ⑨ 学校の先生とスラムの若者を訓練して彼ら自身の手で活動できるように計画している。
- ⑩ 対象グループのために働くための意志力をすべてのJVCスタッフに送ります。



- ① スワン・リンサムパン
- ② 1961年8月18日
- ③ タイ
- ④ 1986年5月2日
- ⑤ 大学を卒業後、子供財団の「今日は貧しい子のために」というプロ

ジェクトに参加した。私はショウの運営のほかにあやつり人形もやった。ここで私は“タイの子供の栄養失調”のスライドの脚本を書き、調音係もやった。

- ⑥ 昨年の10月、JVCが奨学生を決めるためのミーティングに参加したことでJVCが子供のための活動をしていることを知った。子供というものは無垢で心も歪んでいないと思う。将来この子供たちが国にとっての喜びとなることを願っている。私は子供が好きだし、このような活動は子供との

つながりを生み出すことができる。

- ⑦移動図書プログラムを開始した。2カ月間は地域の選定と調査をし、この時その地区の人々や団体と協力して本や他の備品の準備をした。本の管理はその地区の人々がする。毎月私はスタッフや地域の人々とともに図書利用のための情報を準備し、図書の役立て方を話し合う。本は毎月地域に配布され、月に1度映画も上映される。
- ⑧JVCに入って日も浅いので意見といわれてもあまりない。JVCの改善すべき点があればJVCの他のメンバーと話しあっている。
- ⑨子供が創造的に物事を行なえるように、良い考え方や活動のしかたを教えたい。すべての地域で若者たちのために何か良い活動を準備し、社会で幸福に生活する方法を教えられたらと思う。また子供たちを良識のある大人に育てるために、はっきりと考えを表明できるように訓練したい。すべての人間が夢のある生活を送らなければならない。これが私の大きな望みである。
- ⑩あなた方が貧しい人々のために忍耐強く活動を続けてくれることを望んでいます。もし機会があれば、タイの私たちのチームを訪れて下さい。



- ①レラ・クンナロン
- ②1961年11月14日
- ③タイ
- ④1986年5月2日
- ⑤週刊新聞『スアナ・コード』のレポーターをしていた。

- ⑥JVCの活動の目的は私の考えと一致している。ビジネスではなく、子供と身近に接することのできる仕事は楽しい。これがCDチームに参加した理由のすべてである。
- ⑦私は奨学金プログラムに直接責任を負っているのでもそれぞれの学校の教師や地区委員会と連絡をとらなければならない。彼らが奨学金にふさわしい子供を推薦すると、その家を訪れて家庭環境のデータを集める。また、子供のための開発活動の準備をする。
- ⑧JVCは各々のプログラムに明確な目標を持つべきだと思う。人間開発の点においてのそれか、または単に援助だけして受け手の可能性を考えるか。
- ⑨子どもたちにその能力を発揮する場を与えたり、自信を持たせるような活動を増やそうと計画している。過去においてこの点がおろそかになってい

るが、これはスタッフの数に限りがあるからである。私は完璧に活動できるかは断言できないが、ベストを尽くすつもりである。

- ⑩働いていると時々自分の思いどおりにいかないことがあるので、簡単に意気消沈せず活動を続け、そして、その問題点に合理的に対処してほしい。



- ①コメイン・スンサマラ
- ②1958年1月17日
- ③タイ
- ④1986年5月2日
- ⑤2年間教員助手として働き、そして同じく2年間を“農地改革と農村開発”に携わるタイのNGOにボランティアとして入る。私は貧しい農家の生まれなので、開発を是非と考えている。

村開発”に携わるタイのNGOにボランティアとして入る。私は貧しい農家の生まれなので、開発を是非と考えている。

- ⑥JVCのイメージはNGOの交流を通して知っていた。今私が確信を深めていることは、JVC予算は政府からもらわず、本当に心ある人々の寄付で成り立っているということだ。

#### ⑦再定住と地域開発

地区：ラッカバン、クロントイ、バン・ブア  
問題点：1.貧困、低収入 2.土地無し、家無し、名前無し、3.電力、水道、環境の不備  
4.教育、学校、十分な食糧に欠ける子供  
5.麻薬中毒 6.組織力の欠如

任務：これらすべての改善

- ⑧まず最初に、私はボランティアの意識を認識しているJVCの性格をすばらしいと思っている。お互いの能力を認めあい、基本方針をともにしつつも、責任を分担して独立することができる我々のシステムに満足している。もし何かというならば、報告と伝達のシステムはどうなっているのか。

- ⑨地域の問題は私自身の問題でもあるが、私はまず人々の力に信頼を置かなければならない。そして彼らを参加させ、忍耐させ、彼らの手で解決させる。私たちのプロジェクトはこの根本方針より生じる。

プロジェクト：家の再建

：デイケアセンター、他の教育センター  
：職務訓練センター

- ⑩もし鳥になれるなら、青空をとぶ時は白い鳩になってあなた方に会いに行けるでしょう。白い花はタイのボランティアが心から捧げる贈り物です。我々が世界です。我々が平和の使者です。

(つづく)

## クロントイの子供たちとともに

### 子供たちの中へ

昨年1月よりCD(地域開発)チームの奨学金活動に具体的にかかわっていく中で、毎土曜日、スラムの図書館で特別プログラムを作り子供たちを集めていることを知りました。CDチームのリーダーであるトゥックさんから日本人主婦への要望もあって、1~2時間子供たちと一緒に遊ぼうと軽い気持ちで出かけることにし、第1回めが2月1日、2回目の訪問をしたのは5月17日でした。

訪問に先立って60人分の材料を整え、2回ほど打ち合わせをしたのちJVCの方々の協力を得てでかけました。

第1回目の時に音楽をちょっと入れましたら、気分も乗って最後にはサムルエイさんによるロイカトンの踊りまでとび出しました。

第2回目には主婦の渡辺さんが魚つりゲームと竹馬を作り、これは子供たちに大好評でした。「かざぐるま」や「こま」の色塗りは、まわした時の色の変化が楽しいのですが、あまり上手に色の塗れなかった子は自信なさそうにしていました。それがまわしてみると思いがけない色になって、その変化にパッと顔が輝きます。新しい発見の喜びがそこには見られます。

### 得たこと学んだこと

百聞は一見にしかず。近くにいながら実際にその子供たちに接するまで偏見と想像の中でスラムを考えていましたので、整備されている図書館や子供たちの明るい表情に意識を変えさせられました。



魚つりゲームで遊ぶ

また子供たちの兄弟愛にも心暖まるものを感じました。小学生の子が2歳ぐらいの弟の面倒を見ながら色塗りしたり、家にいる弟妹のためにもう1つ作って持っていくという具合です。新聞紙やボール紙で作ったものですが、大切に持ち帰る子供たちを見て、物と親の愛にあふれる日本人の子供のことを思いつつ、「心のゆたかさ」とは何であろうかと考えさせられました。

### 自立につながる援助

CDチームの活動がタイ人のスタッフによりりっぱに運営されていることは、JVCの働きが本来の援助(援助される側の自立を助ける)役を果たしているのだと思います。この訪問もまさに主婦のトライアルアンドエラー(試行錯誤)であり、不十分さを反省するのですが、帰る時にスタッフの方から「次はいつ来てくれますか」と必ず聞かれたり、子どもたちが入れ替わり立ち替わり掃除の手伝いをしてくれる姿にその働きの実りを見る思いです。

### 今後に向かって

継続は力なり、内容より続けることに意義があります。月1回の訪問を旨として続けていきたいと思います。と話し合ったのでした。

一枚の紙でも折り紙、色塗りは、はさみで切るなど工夫することができ、生活の中にも役立てていけます。「遊び」の楽しさも加えて創造性のひき出されるプログラムも検討していきたいと思います。

中には「マイペン、マイペン(出来ない)」といってやらせようとする子もいますが、自分でくり返しくり返し作っている子もいます。ひとりにでもふたりにでも何か伝えられたら、そこに意義を見出せます。さらに3人、4人と新しい体験を通して感性の豊かさや創造性がひき出される一助になれば幸いと思います。

無限の可能性を秘めている子供たちの瞳の輝きをさらにキラキラさせることのできるものは何であろうか。この国の次代を担う子供たちに必要なものは?と、問い続けながらこれからも関わっていかねばと考えています。(河村)

# キャンペーン“Green for Africa” のラインナップです

グリーン・フォー・アフリカ・キャンペーン実行委員会

4月開始の予定が、5月、6月と延び延びになっていたキャンペーン“Green for Africa”は、7月15日、“JVCの、JVCによる（つまり単独の）、JVCのための”キャンペーンとして、ようやく本格的にスタートしました。あの飢餓ブームはいったいどこへ消えてしまったの？ という状況のなか、緊急救援から復興への協力に多くの人たちの関心を集めるため、エチオピア・マーシャ村復興計画の募金活動のために、用意したものは――

1つはポスター。昨年チャリティー・カレンダーで評判をよんだ野町和嘉さんが飛行機の中から撮影したエチオピアの緑の畑の写真に、白く“Green for Africa”。そして小さく“森と水と豊かな大地……そして人のきずな。それは地球の大切な資源。飢えない明日のために、アフリカへ、長い支援を送りたい”というサブコピーがあります。リーフレットにも書いたキャンペーンの目的――①エチオピア・マーシャ村の人びとによる復興計画に協力する②アフリカを理解し、飢餓の原因を学ぶ③“アフリカの緑”を通して、地球の生態系と私たちの暮らしの中の緑を考える――をギュッとこめたつもりです。リーフレットのほうにはプロジェクトの背景からアフ

リカが問いかける問題まで詰めました。

3つめの募金箱は、たっぷりした大きさ、目にも呼びかける青ガエルのグリーン。各地で活躍してくれることを期待しているのです。

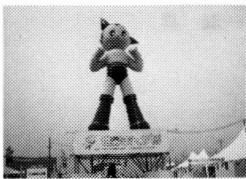
イベント用に写真パネル。プロジェクトは4月に始まったばかりなので、記録というよりもさまざまなアプローチから総合的な計画を表現。

そしてJVCの活動を記録した16ミリ映画『エチオピアの鼓動――私たちとの結びつきを考える』8月初めに完成。1984年暮れとその1年後に撮影されたフィルムに最近の状況のスライドが加わってJVCの経験とメッセージが映像となっています。

募金集めのために、Tシャツも作りました。日本漫画家協会のかたたちが描いてくれたはがき漫画の中から、秋山孝さんと古川タクさんの作品をプリントしたもの（各1000円）。日本中でこの夏、人気を二分！ となったらうれしい――担当者一同の思いです。

キャンペーンに向けてラインナップは遅ればせながら整いました。ひとりひとりの、そしていろいろな団体の協力を得て、走るだけです。キャンペーンをお手伝いして下さる方も募集中です。（佐久間）

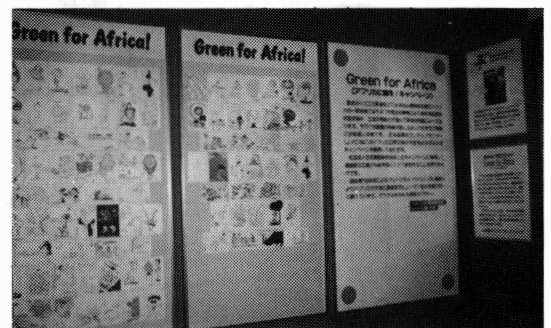
## 走りだした世界まんが博



大阪駅西口のコンテナヤード跡地に、スクッと鉄腕アトムが立ちあがり、7月20日から世界まんが博が開かれました。入口を入って

左、テーマ館の中に“Green for Africa！（アフリカに緑を！）”のコーナー。大きな3枚のパネルに日本漫画家協会のかたたちの描いたはがき漫画約150枚がビッシリ。木をかじるビーバーと苗木に水を与えるビーバーのコンビは子どもたちの人気モノ、みんな指さしてクスクスッと笑う毛はえ葉のイメージのまんが、ユーモラスなものあり、辛らつな漫画あり、バラエティ豊かです。ジックリ楽しめ、“何か”を感じてもらえるのでは。合わせて展示してあ

るキャンペーンの写真パネルの中では、子どもたちが写っている写真に親近感を覚えるようです。募金箱におこづかいを入れながら「ほんとに渡してえや」と言った男の子。若い世代を対象にキャンペーンは始まりました。



世界まんが博 '86——1.

# GREEN FOR AFRICA

日本漫画家協会

7月20日から世界まんが博が開かれています。日本漫画家協会ではJVCの「グリーン・フォー・アフリカキャンペーン」のために各漫画家に呼びかけ、地球やアフリカの緑をテーマにしたまんがを集めました。なつかしいまんが、笑いをさそうまんが、イラストなどいろいろあります。次号にわたって掲載いたしますが、紙面の関係から全部御紹介できないのが残念です。ぜひ本物を見て下さい。



秋山 孝

アフリカに緑を!!



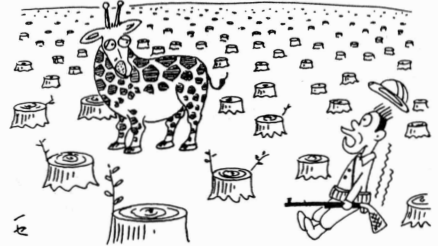
東セツオ ちっス



荒井孝昌



石森章太郎



一瀬 昇



伊藤たかし





猪俣昭良

GREEN  
for  
AFRICA



梅沢かずお



大坂ときを



T. OHSAWA  
おおさわ・匠



おおとも  
やすみ



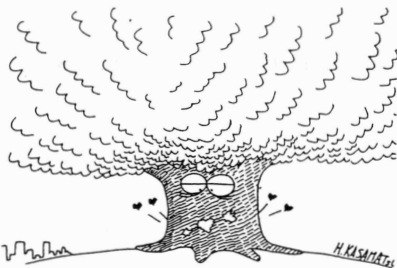
大村和泉



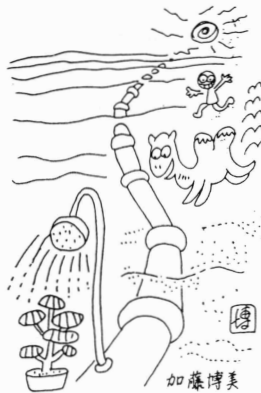
田中



小澤一雄



笠松 洋



加藤博美



加藤芳郎



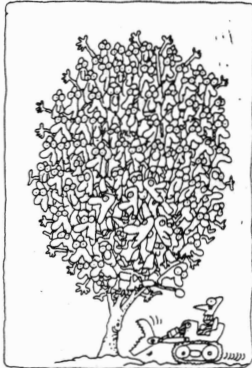
香取正樹  
香取正樹



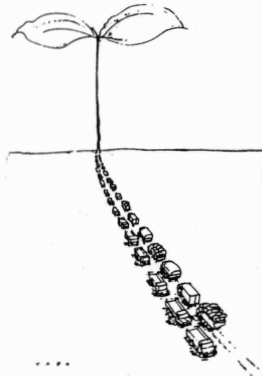
きかわ かえる



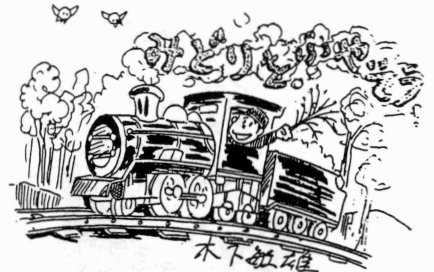
Ryu  
木佐森隆平



木曾秀夫



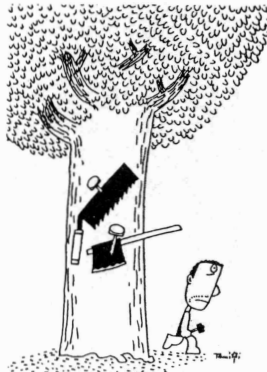
樋口太郎



木下敏雄



クミタ リュウ



黒田とみじ



ゴトー 竜



さいとう たかを



坂井せいごう



坂井よしはる



佐次たかし



島 充



1986.6.23.



菅沼 恭



関口 尚



平 二郎



武田京子



夕方ミル



種村国夫



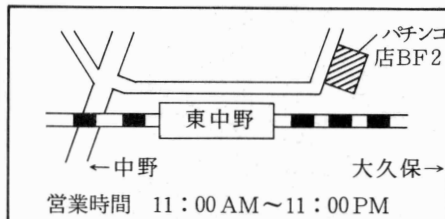
田村久子



団 士郎



長 新太



〒164 中野区東中野 5-5-3

トーキョービル BF2

☎ 03 (364) 6304

(左) 料理の説明をするトゥアンさん

ホン・ヴィエトは「ベトナムの香」という意味である。東中野駅東口から歩いて1分もかからない。パチンコ店の地下2階にあるこのベトナム料理店は、テーブルが5つほどの明るく小じんまりしたお店だ。お薦めの料理を食べながらこの顧問的存在であるトゥアンさんにお話をうかがった。

この店の特色はまず第一に定住難民が日本人の手を借りずに自分たち自身で作ったことだ。現在は店長のレ・ティ・テーさん、トゥアンさん、彼の奥さんで料理を作っているガーさんの3人できりもりしている。

ホン・ヴィエトは6月4日にオープンしたばかりなのでまだまだ知名度は低い。それでも開店前にチラシを6000枚配ったり、知人などの口コミで週末には100人ほどの客が入っている。平日は10~15人ぐらいいだという。若い人が多く、近くの日本語学校に通う外国人もよく訪れる。もちろんベトナム人たちも故郷の味を求めてやってくる。

メニューにはベトナム人が普段食べる家庭料理とお祭りの時に食べる特別料理がそろっていて、品数はかなり多い。生春巻(1本250円)は香味野菜の味がきいていて、皮の柔らかさとよくあっている。揚げたてをレタスに抱んでトウガラシの入った甘酢につけて食べる揚げ春巻(1皿500円)、きつね色のクレープのように薄い皮で材料を包んだお好み焼きのパンセオ(700円)、皮が白いもち状のエビ肉団子(600円)など、シンプルな外見の中にいろんな味を包みこむことにかけてはベトナム人は天才のようだ。孵化しかけた卵のトルンガーロン(150円)はベトナムでは安い農民料理として人気があるが、日本人は敬遠しがちとのこと。これは孵化場に頼んで機械を入れて作ってもらっているそうだ。

トゥアンさんは71年に留学生として日本に来た。明星大学電気学科を卒業し、NECでプログラマーとして働いていた。ポートピープルが日本に初めて来た時はカリタスジャパンの人たちといっしょに彼らの世話にあたった。ところが彼らがただ外国に夢を抱いているだけで安易に出国してきたことになりし、一時は難民のために働くことはやめていた。しかし81年以降は決死の覚悟でベトナムを後にする難民が増え、再び同胞のために働くことを決意した。現在は救援センターで通訳の仕事をしている。ベトナムには73年に帰国して以来帰ってはいない。

家族は父親がベトナム、弟はアメリカ、姉は西ドイツと、別れ別れに暮らしている。トゥアンさんは難民だったガーさんと1年前に結婚し、夜はガーさんとこのお店を手伝っている。話をうかがっている間もガーさんの作った料理を運んだり、お客さんに説明したりと忙しい。

日本についての感想を聞いてみた。家が狭くて家賃も高い。日本人は外国人を理解しようとせず、ほんのわずかな日本人としか友だちになれないなどなかなか手厳しい。そこでこのお店で多くの日本人に食事してもらい仲間をふやしたいのだという。また日本に定住しているベトナム人にとってはこのお店が第二の故郷として精神的な支えになることをトゥアンさんは望んでいる。

お店はパチンコ店の地下ということもあって少々騒いでも心配はない。ディスコ・パーティもOK。ただしカラオケは“好み”として入れていない。午前11時から午後1時までにはランチメニューもある。今のところ定休日はないが9月からは月曜日を予定している。(石原)

### ● 林医師、一時帰国

エチオピアのマーシャ村から林達雄医師が一時帰国しました。1月に病院が閉鎖されてからも、次の復興プロジェクトの調整役として残っていましたが、国内のキャンペーン(グリーン・フォー・アフリカ)も活動を開始したこの期に、連絡、資金集め等を行なうため戻って来たものです。2週間程の短い滞在です。東京での仕事はもちろん、名古屋、京都、大阪、四国でも人に会ったり、報告会、講演会をしたりとギッシリスケジュールがつかまっています。帰国途中のシンガポールでかけたというパーマに手をやりながら「最新流行の髪型にしてあげると言われてパーマをかけられちゃったよ。床屋はハンサムになったと言ったけど、エチオピアじゃやっぱり直毛がおしゃれだもんね」と話していました。

そのマーシャ村は標高2900mのところにあるので暑過ぎはしないものの、ノミ、シラミに悩まされて痒くて眠れない夜が続く時もあります。燃料の関係でお風呂にも長いこと入れませんし、野菜は人参、じゃがいも、玉ねぎ、にんにくしかないのです、どう

### ● 海老名市青年の祭典

7月19日、20日、YOUTH IN EBINA でバザーを行ないました。これは昨年の国際青年年に引き続き、国際平和年の今年も開かれたお祭りの企画の一つです。当日はお天気にも恵まれ、出店の場所もシャプラニール、曹洞宗ボランティア会と並んで前方のいい所を与えてもらいました。品物を買った人がすぐ帰ってしまうのではつまらないという昨年の反省から、さらにお店にも一工夫加えました。各団体がビデオを用意し、それぞれの活動の様子を紹介。バングラデシュのチャイやカンブチアのジャスミンティーの無料サービスを行ったり、民俗音楽を流すなどして、対話の生まれる雰囲気づくりを心がけました。そしてシャプラニールはジュート製品を、曹洞宗とJVCはモン族やミエン族の民芸品を売りました。JVCの今回の売上は4万2560円でした。これは始まるまで待てないプロジェクト、JAST、日本語家庭教師プロジェクトのそれぞれの活動資金として使われる予定です。

しても羊肉を使った脂っこい料理等が並ぶことになります。そんな中での楽しみは、馬やラバに乗れること。壮大とも言える眺めの中を馬で行くというのは、行動範囲も広がりますし、日本ではなかなか味わえない事と言います。そして今回もう一つ楽しみが増えそうです。少しお金はかかりましたが、長期戦のプロジェクトに備えてソーラシステムのお風呂沸しを備えることにしたのです。風呂好き日本人の精神安定剤も含めた健康管理法という訳ですね。

村ではこの先2年かけて、薪のために成長の早いユーカリを、山には土地の保全のために根のはるような木を、食糧のためにりんご等の果物の木の植林を考えたりしていますが、何しろ資金が足りません。Tシャツを販売したり、「まんが博」に募金箱を置いたりしていますが、短波放送を聞いた人々に送られるベリカード(受信証)に、アフリカの写真入りのJVCカードを作ったらどうだろうか?とか、絵葉書きは?とか新たな資金集めの方法も考えたりしています。もっと広く一般にもキャンペーン協力を呼びかけていく方針です。

### ● Happiness in the world

先月号でお伝えした、かながわ国際平和年フェスティバル(8月2日・3日)参加にあたり、“始まるまで待てないプロジェクト”のメンバーが中心になって、歌をつくりました。作詞は松蔭女子高の中林真弓さん。作曲は東京農大の井本勝幸さん。当日はステージから日本語、タイ語、ラオス語、クメール語の言葉で歌いかけます。その時のために皆は合宿などとして練習を重ねています。とてもいい歌でしょ? どうぞ皆さんも口ずさんでみて下さい。

spread wings high up the sky  
rush out of your world  
まてないこの気持ち すきとことばにして届くかしら  
あなたのもとへ手をのばして ほらここよ  
あなたといっしょに rush out of your world  
spread wings heart high up the sky  
ほら手をのばせばそこは Happiness Happiness  
そうさ spread wings heart high up the sky  
rush out of your world

# Dear, My Friend

出会ったこと、思うこと

考えさせられた本、映画……について

原稿、お待ちしております（1000字ぐらい）

## JVCの国内活動を考える

井上博夫

この夏、大阪ではマンガ博の中の一企画として、「グリーン・フォー・アフリカ・キャンペーン」が行われている。私の知り得た範囲内で結論をいうとあまり上首尾ではなかったといえよう。聞くところによると、東京での企画、立案の決定が延び延びになり、それにとまって関西で協力者を募ることが後手にまわり、泥縄に近い状態となってしまったからである。

今回の企画が上首尾でなかった原因は単に企画のありように限ったものでなく、JVCの国内活動に共通してあり、基本的な体質に起因しているように思われる。はっきりいって国内基盤が脆弱なのだ。これは他のNGOと比較すればよくわかるだろう。

例として、幼い難民を考える会（CYR）と比較してみよう。

JVCは億単位の年間総経費であるのに対して、CYRはその10分1程度の3000万円から4000万円しかない。そのCYRが一度チャリティバザーをすれば150万円ほどの収益がある。ところが規模のはるかに大きいJVCがバザーをしてもそれだけの収益を上げるのは難しい。JVCはCYRよりも自己資金を生み出す力に乏しいといえる。

JVCは1980年2月に発足し、インドシナ難民救援ブーム、アフリカ救援ブームに支えられ活動を広げてきた。そして日本でインドシナに対する関心が薄れると、タイ国内の活動は終了、あるいは縮少の一途をたどっている。

このような海外でのプロジェクトの変遷を概観すると、JVCはブームにうまく乗った形で活動を展開してきたといえるだろう。それゆえにプロジェクトは一時的に集まってくる募金や大口の出資団体からの資金に頼ることになる。いずれにしても自己資金

が少ない。今までJVCは海外でのプロジェクトには成功してきたが、それを支える国内活動を置き去りにしてきたといえないだろうか。頭と上半身だけが異様に大きく、下半身がもろい巨人の姿を思わせる。

アフリカブームが去ろうとしている現在、JVCが今あるプロジェクトを維持していこうとすれば、国連機関をはじめとする大口の出資団体に依存してゆかざるを得なくなる。その傾向はすでにあるし、それが極まってゆけば、JVCは「草の根」とは無縁のものになってしまうだろう。もしJVCが「草の根」と無縁になっても、それなりに存在してゆけるだろうが、そうになってしまうとOBの一人にすぎない私の手の及ぶところにJVCはない。

JVCが多くの草の根から支持されたいと願うならば、国内活動の考え方を一から検討すべきだろう。そう思うのも、本誌56号の座談会を読んでからである。その中でCYRの笹尾さんはこう言っている。「国内活動とは、どれだけその組織を一般の人々に浸透させ、認知してもらうか、という広報活動につきるのではないのでしょうか」（P6）

おそらく笹尾さんには活動を十分に理解してもらうことが資金的な援助を得ることにもつながるといふ思いがあるのだろう。

そうした思いに裏打ちされたCYRの日常活動が一回のバザーで150万円の収益をあげるという成果となって表われてくるのだと思う。バザーの1カ月前にもなるとCYRの事務所はバザー用品でうめつくされ、また整理のボランティアが入れ替わりやってくることから、CYRの国内活動への取り組み方をうかがい知ることができる。

それに対してJVCのメンバーは、広報活動と資金集めは全く異質のものだと考えているようだ。「ただ知ってもらう」というだけでは広報活動が軽く説得力のないものになってしまうのも無理のない話であろう。

JVC国内活動への十分な反省と、海外でプロジェクトを展開するのと同じくらいの取り組みをしない限り、東京はともかく、大阪をはじめ他のいかなる地域での国内活動は成功することはないであろう。

井上さんの手紙を読んで——

## 誰が活動をやるのか

森山久寿子

主体的に何かの活動をするということは、自分から行動をおこしてやることではないだろうか。自分の目的と一致する既存のグループや組織に入って活動すれば仲間がみつかりやすいし、ひとりでやるよりも大きな力になる。海外の現場で活動するにしろ国内の活動をするにしろ、自分で考え判断し、行動するのは同じだ。もちろん、一緒に活動するメンバーとの話しあいを重ねながら問題点の共有化を図らなければプロジェクトは進まない。

JVCの国内活動が弱いという時、指摘されているのは、スタッフのことだろうか、会員のことだろうか、事務所に出入りするボランティアのことだろうか、それともそう言ってる井上さん自身を含めて問題提起しているのだろうか。

国内もひとつの現場と考えるなら、これほど難しく、かつ、やり甲斐のある現場もないだろう。しかしあまりに身近にありすぎて、自分の怠慢には気づかず他者の行為に期待したり、非難したりするだけで終わってしまうことが多い。海外で活動する分、国内に力を入れるというのは、自分たちの足腰を強化するうえで大切なのは言うまでもない。しかしJVCの組織の現状ではスタッフが海外のプロジェクトに人員的にさかれ、国内活動に力を振り向けることが難しい。

私が国内に定住している難民のアフターケアを始めた時、どうしてJVCは目の前の問題にとりかからないで、海外の活動ばかりをやるのかと思ったことがある。しかし国内も海外も現場という点では変わらない。地域という視点に立てばどこからとりかかろうと、問題解決というひとつの頂上にむかうことでは同じだからだ。

そこで日本に定住している難民のアフターケアはどうなったかという、自ら新たな仲間をつのって、グループをつくり活動を続けている。数人で始めた頃から考えると、もう5年目になるが、人が増えたり減ったりと、ひとすじなわけではない。

難しい所であるが、関わった一人一人が何かを感じ新たな展開をみせていることを考えると、やり甲斐のある活動である。

国内、とくに自分の住む地域で何かを始めるのは並大抵ではない。バザーひとつにしても、収益をどう使うのか検討し、販売品を集め、仕分けし、値札をつけ、店に運び売り、会計をし、協力者に報告し、後片づけをする。この労力を毎回きちんとやるには、それなりの経験や人材がいる。

まず、なぜバザーをやり、どういう目標設定をするのか、収益金をまわすプロジェクトに対しての確かな視点と積極的な関わりがある。おいそれとバザーとはいかない。他団体が何百万円というバザー収益をあげているのをみながら、JVCではどうしてそれができないのだろうと考えもする。JVCがかかえるプロジェクトの多さを考えると、バザーひとつでも、JVC（誰をさしているのか考えなければいけない）にとっては、大仕事である。今まで何回も試みられたバザーも今だに勉強中である。

勉強会、講演会、交流会、催し物などなど国内にはあらゆる可能性が広がっている。誰がどんなふうにするのか、顔のみえる関係からはじめる国内活動こそ、足腰を強くする第一歩であろう。そのためには、JVCがやるとかやらないとかいう議論より、何町の誰が何をして、どうなった、自分はそれに対してどう関わったかという一人一人の自覚を促すことの方が先決だ。

顔のみえない相手を組織にすりかえて非難することは、国内活動を他人に頼ってしまう現象を生むだろう。JVCに集まる或いは賛同する一人一人は、自己に問いかけられる毎日ではないだろうか。



JVCだってがんばっているんですよ（海老名市）

# JVCプロジェクト

1986年7月25日 現在

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
東京本部	<p>渉外, 事業計画, 資金調達, ボランティア調整, 会計, 総務, 情報収集および広報等。 機関誌『トライアル・アンド・エラー』発行。 JVC 説明会 - 毎月第1月曜日 午後6時~9時 第3日曜日 午後1時~4時 学習会 第4月曜日 午後6時~9時</p>	全国社会福祉協議会	岩崎駿介 (代表) 星野昌子 (事務局長) 柴田久史, 佐々木志保, 加納 妙, 前川昌代, 佐久間典子, 古西 勇, 他15人
日本国内	<p>●日本語家庭教師 評価表を集計し、『そんぼっと』に発表。現在は定住者と活動者リストの再確認, 追跡調査を行っている。各国語による活動案内も作成する予定。大和教室は7月27日で86年度の第1期を終了した。生徒減少のため新たな人材を呼びかける。機関誌『そんぼっと』の発行。</p>	ジャパン・タイムズ	森山久寿子, 落合正幸 地区連絡係10人 他約70人
ソマリア モガディシュ 事務所	<p>渉外, 事業計画, 会計, 総務。</p>	UNHCR レフュジーズ・インターナショナル 創価学会文化・平和運動事務局 ジャパン・タイムズ	嶋 紀晶, 山口誠史, シアッド
マガネイ・キャンプ (ゲドー郡)	<p>●農業による自立促進 / 定住 土地登録のために測量し, 製図をする。ディーゼルポンプの故障, 地力の低下が問題となっている。ジュネーブからUNHCRの視察団が来る。</p>		鴫田三芳, 荻ノ迫善六, 中川正憲, 柿原建三, 五十嵐裕昌, 法橋 亮, 庄司 美, モハメッド, ラシッド, ハジ, アオキ 船川秀夫, 南部良一
マグドール・キャンプ (ゲドー郡)	<p>●医療・保健 / 補助給食 マグドール1での午後の集中給食を閉鎖し, 午前のみとする。 トイレ作りを進めている。</p>	朝日新聞厚生文化事業団 モラロジーMIRC 仏国土をつくろう会 砂漠に種をまく人の会	榎田秀樹, 石井弘代, シェイク・アブディ
ジャボレ・キャンプ (ヒラン郡)	<p>●医療・保健 / 補助給食 老人も対象に含めて補助給食を行う。成人の三大疾病の1つ, 貧血の患者には毎日交互にレバーと卵, 果物を渡す。 ●植林 他 1haの植林地が確保され, フェンスを作り7種類の苗木を植える。貯水池作りも終了。コンパウンド施設は約70%完成。</p>		掛村 均, 米澤 聡, 中路美和子, 高畑辰弘, シュクリ, ハッサン, アブディ
エチオピア (ウォロ州)	<p>●総合的復興促進 先月に引き続きコンパウンドの建設, 農場や苗床の準備, マーシャ村までの道なおしが村人の協力のもとに進められている。 種子銀行の運営も始まり, 必要とする農民には1人当たり19kgを貸し出した。 村の子供たちの栄養・健康状態の調査を始めた。</p>	朝日新聞厚生文化事業団, 山の手(チャリティー)ウォーク, CRDA BAND-AID 西本願寺 モラロジーMIRC	内山田 康, 林 達雄, 伊藤達男, 伊藤幸子, 内藤のぞみ, 久田信一郎

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
タイ バンコク事務所	渉外, 事業計画, 資金調達, ボランティア調整, 会計, 総務, 情報収集および広報, パザール, 古本のセール。季刊『ニュース・レター』(英語・タイ語)発行。	全国社会福祉協議会	ボンピモン・チャイブーン, カモン・ミンムアン, 斎藤美香代, 他約10人
カオイダン (カンブチア 難民キャンプ)	●西崎憲司記念技術学校 自動車, 単車, 1気筒エンジン, 溶接の技術訓練, 上級者向けのワークショップの授業を設けている。7月22日より新しいコースが再開した。現在の全生徒は1,025人。図書館の技術関係の本が不足している。	UNHCR レフュジーズ・インターナショナル 妙心寺派宗務所 花園会	熊木政江, 谷山博史, トンディー・ソムカネ, ソムヨット・ラタナタム
国境のサイト2, ノンチャン (カンブチア 難民村)	●補助給食 7月17日より毎週木曜日にMCH (Mother and Child Health Center) でも栄養教育を始めた。また4月よりCAREへ引き継いだハンセン氏病患者へのドライパックの配給も7月15日より再開した。現在の受益者は3歳以下3,858人, 妊産婦627人, 結核患者293人, ハンセン氏病患者34人である。	WFP/UNBRO	テリース, ブーム, トンチャイ, 蓮尾慶治, 仲田奈々子, ソムボン, スビチャ, エンドリアン, ソムサック, スリペン
バナニコム (第三国定住待ち 難民一次収容施設)	●文化オリエンテーション ●日本定住予定者 ①日本語学習の基礎(読み, 書き, 聞き取り) ②日本語の日常会話の習得 ③日本に関する概略的な理解を促す ④渡航に必要な事柄への理解と実習 ●日本以外の国への定住予定者に手続きの理解を深める。 ●子供レクリエーション・プログラム ペーパークラフト, リズム音楽, 集団ゲームなど。	天理教千葉	浜崎妙子, 大場きみよ アナン・ブッタミリンパティ
地域開発 (バンコク市内の スラム地区)	●奨学金援助 スラム在住児童が小学校(6年間)を卒業できるよう援助している。本年度の対象者は10のスラムで16校250人。 ●クロントイ図書館 クロントイスラム住民の就学前児童から成人までを対象としている。12区における新図書館建設のため, NHA(住宅公社)と交渉中。 ●移動図書 7月はラブレター, ナンシーのスラムで子供向け図書を中心に回覧。 ●移動学習センター(プラティープ財団, FFSC, JSRCとの共同プロジェクト) 9のスラムで学習の機会のない子供たちのため人形劇などで教育を行っている。 ●再定住 ラッカバン地区において再定住したバンコク市内の人たちへの資材援助(長期資金貸与方式)。	モラロジーMIRC NTV, JOFIC 庭野平和財団 京都国際青年委員会	ヴァラナート・チュンクン, サムルエイ・ジョンヨー クラン, アルニー・スニ ット・ムンナイ, レラ クンナロン, スワン・リ ンサムベン, コメイン・ スンサマラ 佐藤正喜
カンブチア (プノンペン)	●カンブチアの人々への総合的人道援助 箕田が7月10日に, 熊岡が17日にプノンペンに入り, ワークショップ/技術学校の建設の準備と, 8月21日よりのJVC/SHAREの医療プロジェクト開始のための視察の交渉を行っている。	日本青年会議所 関東地区協議会, 全国老人クラブ 連合会, 創価学 会文化・平和運 動事務局 モラロジーMIRC	熊岡路矢, 箕田健一
人材派遣プロジェクト			
フィリピン (PFAC, パラワン島)	●国際移民委員会(ICM)-第三国定住手続きにともなう医療業務及びキャンプ内でのプライマリ・ヘルスケア。	城西病院	青井千恵

### JVCの活動とその目的に御理解を

▶JVCとは—Japan International Volunteer Centerは1980年2月、タイのバンコクで設立された民間救援団体です。1979年暮れの、インドシナ難民の大量流出をきっかけに、日本から駆けつけた若者と、現地タイですでに活動を始めていた日本人とが一体となり、現在の組織の原形ができました。JVCは、活動者の自発的な意志に基づき、日本の個人・団体からの寄付金、国連機関からの委託金等によって運営されています。JVCは、人種、国籍、習慣、宗教その他の信条の違いを越えて、難民および同様の窮境にある人々を対象にできる限り継続的な活動を行ないます。

▶JVCの会員募集について—会員は、総会に出席し、JVCの方針などを決定する他、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・上映会・学習会等へ参加することができます。また正会員には自動的に、機関誌(T/E)をお送りいたします。会員の種別と年会費は以下の通りです。

- ・正会員 (一般会員 10,000円 活動者会員 3,000円  
          (団体会員 30,000円 学生会員 3,000円)
- ・賛助会員 金品による支援(金額は自由です。)

▶機関誌『Trial & Error』のみの購読について

- ・毎号1冊送付 年間購読料 3,000円
- ・毎号4冊送付 年間購読料 10,000円

▶送金の方法—下記の口座へ郵便振替にてご入金下さい。

- ①会員：東京5-48365 加入者名-JVC会員係
- ②T/E：東京3-54186 加入者名-JVC東京事務所  
(住所、氏名、購読開始月をお書き添え下さい。)

▶みなさまの募金を支えるJVCの活動—救援活動をより充実させるため、以下の募金をお願いしています。なお募金の20%をJVCの運営経費に充当させていただいています。

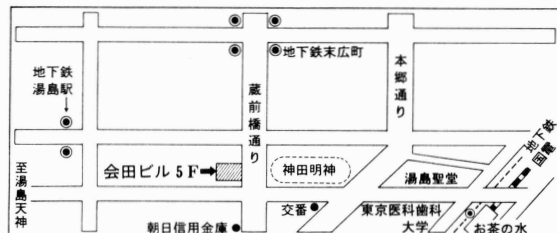
- A. アフリカ難民救援募金 (7月小計 62,318円) アフリカの難民・飢餓民への救援プロジェクトに使われます。
- B. インドシナ難民救援募金 (7月小計 12,000円) タイ国内にある各難民キャンプのプロジェクト費にあてられます。
- C. カンプチア募金 (7月小計 62,000円) カンプチア国内の復興のために使われます。
- D. クロントイ・スラム募金 (7月小計 10,000円) バンコクのクロントイ・スラム内の図書館の運営およびスラム立退き者のための建築資材購入費に使われます。
- E. デッグ・スラム奨学金・基金(7月小計 222,520円) バンコク市内のスラムの子供達が学校へ通う費用を援助します。
- F. 日本語家庭教師募金 (7月小計 240,702円) 定住難民のための日本語教材費と家庭教師の交通費に使われます。
- G. 医療募金 (7月小計 4,000円) 緊急事態が発生した場合、速やかに医師を派遣したり、医薬品などの緊急救援物資を輸送するために使われます。
- H. ボランティア募金 (7月小計 13,000円) 現場で活動を続けるボランティアの健康管理費にあてられます。
- I. JVC運営経費募金 (7月小計 15,625円) 現場を支えるのに不可欠な事務運営経費、人件費に使われます。
- J. 無指定募金 (7月小計 269,058円)

▶送金の方法—下記の口座へ郵便振替にてご入金下さい。  
東京9-27495(募金種目名をご記入下さい。)  
加入者名-JVC東京事務所

### 編集後記

土用ともなると日本の夏もバンコクなみの暑さだ。外に出ると、コンクリートの照り返しに頭がクラクラする。ブロックとトタン屋根で作られたスラム住民の新住居に思いをはせる。もう蒸し風呂を通りこしてオープンになっていることだろう。

緑側のある日本家屋の方が夏は快いように、タイには高床式の開放された家の方が生活習慣に合っている。スラムには地方からバンコクに出て来た人が肩を寄せあうようにして暮している。ゴチャゴチャしながらも暮らしやすいのか、なかなか立ち退こうとしない。隣の台所の奥まで見渡せる所を風とともに人が出入りする。



昭和61年8月20日発行(毎月20日発行)

- 編集人 前川 昌代
  - 発行人 星野 昌子
  - 発行所 日本国際ボランティアセンター(JVC)東京事務所  
〒113 東京都文京区湯島3-1-4 会田ビル5階  
☎03(834)2388 Telex:2323187 JVCHQ J
  - バンコク事務所 JVC THAILAND  
67 South Sathorn Road  
Bangkok, THAILAND  
☎(286) 4857  
Telex:87032 COMSERV TH
  - ソマリア事務所 JVC SOMALIA  
c/o UNHCR P.O. Box 2925  
Mogadish, SOMALIA  
Telex:794 HICOMREF SM
  - エチオピア事務所 JVC ETHIOPIA  
P. O. Box 6941  
Addis Ababa, ETHIOPIA
  - 印刷所 (株)ベスト・プリンティング
- \*本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。

定価 送料共300円